

令和5年度 第2回 総合教育会議 会議録（要約）

期 日 令和6年2月9日（金） 14時00分から15時32分

場 所 雲仙市役所別館3階 防災対策室2・会議室1

出席者 市長
金澤秀三郎市長
教育委員会
大津善信教育長、駒田義弘教育長職務代理者
永岡悦子委員、江川儀平委員、進藤梓委員

事務局 市長部局
柴崎総務部長、佐々野政策企画課長
教育委員会事務局
小松教育次長、富永総務課長、中村学校教育課長
林田生涯学習課長、草野スポーツ振興課長
森田総務課課長補佐（記録）

会議日程

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 議事
次期「雲仙市教育大綱」の策定について
- 4 その他
- 5 閉会

【 1 4 : 0 0 開会】

1 開会

2 市長あいさつ

金澤市長 本日は、次期雲仙市教育大綱の策定について、をテーマとして協議を予定している。本市の教育大綱については、令和元年度に2度の総合教育会議において協議を行い、令和2年3月に第1期を策定し、令和2年度から取り組みを進めているが、計画期間を令和6年度までとしていることから、令和7年度からの次期大綱の策定について協議したいと考えているので、委員皆様の考えや思いを発言いただき、意見交換ができればと考えている。

3 議事事項

市長の指名により小松教育次長が議事進行を行う。

議事 次期「雲仙市教育大綱」の策定について

※事務局から、次期「雲仙市教育大綱」の策定について説明。

小松教育次長 これより、皆様から順に意見をいただきたい。永岡委員、お願いしたい。

永岡委員 （教育大綱の実現に向けた取り組みとしている第2期雲仙市教育振興基本計画の点検・評価シートが）ほとんどの評価がBであったことが素晴らしく、Cの一部の課題が何かをしっかりとわきまえ、次期教育大綱を策定していけばいいと思う。学校のことがほとんどだったので、就学前のお子さんのことを少し入れた方が良いというのと、部活動の地域移行を進めているので、この大綱の中に入るかどうかと思った。

小松教育次長 江川委員、ご意見をお願いしたい。

江川委員 新大綱は、大きな枠、骨組みというのは、このままにして、時代の流れを鑑みながら、その内容等について検討し、策定していいのではないかなと思う。

小松教育次長 駒田委員、ご意見をお願いしたい。

駒田教育長職務代理者 大綱を見ながら、「やさしさに満ちた教育」は非常にいい言葉だな

と思う。この中に温かさとかぬくもりとかが含まれていて、この「やさしさに満ちた教育」というのは好きで、本市が目指す教育としてとても良い表現だと思うし、これからも続いていったらいいと期待を持っている。本市の大綱にも、改定に至った経緯とかポイントや大綱の位置付けに総合計画と教育振興基本計画との関係について、加えてはどうかと思った。大綱の記述の仕方について、4つの項目については、体言止めで項目として強調し、具体的な取り組みのところは、文章で言いきる表現にした方が、伝えやすく全体のバランスも良いと思った。具体的な取り組みについては、順序性はないだろうが①②③というような表記で仕上げたらいいと思った。項目については、大幅な変更というところまではおそらく至らないだろうと思うが、進捗状況の中で一部課題という言葉が使われているので、さらに工夫改善が必要になったり、力を注がなければならないといったところも見つかるかもしれないので、最終の点検・評価や学識経験者の所見を1回点検し直して、内容に入っていっただらと感じた。

小松教育次長 進藤委員、ご意見をお願いしたい。

進藤委員 教育大綱の進捗状況を見て、計画通り進捗ということで、基本的な大まかなところは変更する必要はないのかなと思う。細かいところは、少しずつ更新していく感じでいいのではないかな。雲仙市は、歴史が深く芸術文化のいいところもたくさんあるので、それを教育大綱に取り入れてあるのが良いと思っている。教育大綱自体は、大まかなところはこれで、一部課題があるというところを見直して、少し添えて、改定していいのではないかなと思う。

小松教育次長 大津教育長、ご意見をお願いしたい。

大津教育長 国の第四期教育振興基本計画が閣議決定されたのが令和5年6月、たぶん県内他市で大綱がそれ以降にできたのは佐世保市ぐらいと思う、1回は国の教育振興基本計画をしっかりと見て、逸れている部分があれば、その部分をどうするかが一番のポイントと思う。国の振興基本計画に、例えばウェルビーイングというような言葉が大きく出てきて、身体的にも精神的にも社会的にも良い状態にあり、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を望む概念というのがでてきたりもしてるので、ここを大きく変えるというのではないが、少しここを足したらいいというのがあれば、それを少し落とし込めばいいのではないかと考えている。

小松教育次長 金澤市長、ご意見をお願いしたい。

金澤市長 教育大綱を作ったときに、教育振興基本計画はもうすでにあって、教育大綱を後で作った。そういう時系列と、総合教育会議を始めたときの時期とかを整理をしてほしい。

今までの雲仙市の流れ、教育大綱、教育振興基本計画、総合教育会議のあり方、特に総合教育会議で、教育委員会だけ出席していたときもあって、それ以外全部局長が市長部局も含めてきちんと参加すべきだというご指摘もいただいたことがあったので、その辺の流れを整理してほしい。教育大綱の教育っていう文言と、学校教育っていう文言と、きちっと使い分けをして使ってるのかどうなのかというところが、教育大綱を策定したときに、非常にやりとりをしたような記憶があって、そこも整理して教えてほしい。評価シートの一部課題が、実際どういう課題があるのかを整理してほしい。各自治体の教育大綱が、どこも5年なのか。その変遷というか、変化に気づきたいので、どういうふうに変わってるのかがもしわかれば、整理をしてほしい。

富永総務課長 先ほどのご質問の件で、大綱をつくるのが義務なのかというところについては、努力目標と思っている。文部科学省からは、教育振興基本計画が大綱等を網羅していれば、それを大綱と代えることができるとされているので、雲仙市は第1期の前はそういう形で、教育振興基本計画を大綱の代わりとしていた。そのようなことから、第1期の教育振興基本計画の後に、教育大綱を策定し、第2期の教育振興基本計画を作ったような流れになっている。教育と学校教育の使い分けと、他市の変遷については、次回ご説明をさせていただきたい。一部課題の整理につきましては、資料3にある中で、例えばタブレットの在宅学習が進んでいないとか、コミュニティスクールが中学校においてが進んでいないとか、体制づくりと、予算的な問題とか、そういう個別の課題があり、一部課題があるとしている。これも整理したものを、次回お示ししたい。

金澤市長 教育大綱は、例えば県下21市町あるのか。

富永総務課長 全部ではなく、教育振興基本計画に変えるとしてるところがある。期間についても質問があったが、期間も定めがなく、概ね4年、5年というところが多い。他市を見ると諫早市は4年、対馬市は、最初に作ってから計画期間の終わりを設けていない。

金澤市長 一部課題の課題は、評価シートを見ればわかるだろうが、どこが課題かはパッと見たときにはわからない。

富永総務課長 例えば、資料の9ページで説明すると、シートの中ほどより下の部分に、評価検証及び課題というところに、今年度の評価と課題ということで書いている。例えば9ページで言うと、一番下の丸のところに中学校においては小学校よりもタブレットを用いた在宅学習が進んでいないというところが課題としてあがっている。

金澤市長 資料で、5、6、7、8に計画通り進捗と、一部課題があるが概ね計画通りと進

捗が分けてある。この評価検証及び課題というのは、全部記載はあるけれど、概ね計画通りというのと、課題を感じてるといものを事務方で仕分けしてると思えばいいのか。

富永総務課長 その下の自己評価で、Bがついてる部分が計画通り進捗で、Cのところの一部課題があるが計画どおりの自己評価をしている。

※事務局から、次期「雲仙市教育大綱」の策定について続きを説明。

小松教育次長 これより、皆様から順に意見をいただきたい。江川委員、お願いしたい。

江川委員 先ほど申したように、大きな枠組みについては従来通り現行の大綱でいいと思っているが、具体的にどういった内容を、或いはどういった言葉を入れ込んでいくかといった部分については、新しい言葉としてウェルビーイングという言葉が国の教育振興基本計画の中に盛り込まれている。本県の先ほどの資料にあるように、長崎市以下いろんな市町の資料を見てみると、大綱の策定期間も関係してるのだろうが、佐世保市がこの基本計画のウェルビーイングという言葉で、もうここを受けて、時機を逸せずすぐ大綱の中に盛り込んである。今のところ佐世保市だけといったところが確認できた。本市についても、時代の流れに即した言葉として、この言葉をもう少し噛み砕いた形で内容の方に盛り込んではどうかと思っている。どこに置くかとなると、現大綱のこの4つの項目の中で、ウェルビーイングという言葉をもっと理解した上で、この言葉を位置付けていったら、いかかかと思う。具体的にどういう言葉でどういう表現でといったところは言えないが、そういった内容の検討をしていってはどうかと考えている。

小松教育次長 駒田委員、ご意見をお願いしたい。

駒田教育長職務代理者 今、江川委員それから教育長がおっしゃったようなことも含めて、この大綱が、1期目は2年度から6年度までで、今回初めて改定ということになるので、今のようなことを、改定についてという1つの項目の中で、国の流れとか、大事なこれから先に必要になる言葉とか、そういったものを入れて、その経緯とかポイントなどを、項目として、この大綱の中に加えていくというのがいいと思い先ほど発言した。それから言葉等については、評価その他をよく見ながら考えていきたいと思う。

小松教育次長 進藤委員、ご意見をお願いしたい。

進藤委員 先ほど教育長もおっしゃったが、1人1台のタブレット端末が配られたのが多分2、3年前のことだと思うが、この教育大綱が策定されたのが5年前ということで、この

デジタル端末のことが、情報教育環境の整備に努めますと書いてあるが、この項目をもっと詳しく、そういうのをに入れていってもいいんじゃないかと思う。

小松教育次長 永岡委員、ご意見をお願いしたい。

永岡委員 国の教育振興基本計画の目標が1から12までであるが、雲仙市に合った項目をその中からピックアップして、大綱に入れていったらどうかというのが1つと、資料4の基本方針4人財と郷土を読んだ中で、雲仙市のことがすごく具体的に書いてあったので、これを基にして計画を立てていったらいいのかなと思った。

小松教育次長 大津教育長、ご意見をお願いしたい。

大津教育長 確かに、国が策定した教育振興基本計画を見ると、横文字じゃないがカタカナの言葉も多い。確かに国はもっと大きいところで見るところもあるから、深く、例えば高等教育あたりも踏み込んだようなのもあるとは思うが、大綱の大きな流れのところは、駒田委員も言われたように、改定に向けてあるいは改定についてという中で、一般の方も読まれてわかるようなわかりやすい言葉に落とし込んで付けていけばいい。大きく4点項目があるが、駒田委員が言われたように、推進というのはそこで止める形に変えていいのではないかと思う。改定に向けて、改定についてという中で、少し流れを一般市民の方も見てわかるようなことを押さえて、例えばアクティブラーニングとかいろいろ出てきているが、今まで一方通行の座学だったのが、主体的で対話的な深い学びというのが出てくる。学校の教育について言えば多分そういうことだと思うので、そこはまた事細かな政策の方に少し落とし込んでいけばいいと思っている。

小松教育次長 最後に金澤市長、ご意見をお願いしたい。

金澤市長 教育大綱を改定するために、せっかく時間を取って協議をしていただいているので、今現状で抱えている課題みたいなものがあって、それを乗り越えるためのきっかけになれるような文言の整理とか、どうしてもそういうのを考える。そうしたときに、17ページから26ページまで、政策の4-1から4-4というのをずっと掲げてある。この中で、本当に一番今課題だと思われているのが、それぞれの分野で何なのかというのを、どう感じているかというのを聞かせていただきたい。それから、江川委員からウェルビーイングというのが出てきて、佐世保市の例をお示しいただいて大体わかった。ただ横文字に抵抗がある方がおられるので、そういう配慮というか、その辺はやっぱりあっていいのかなと思いながら、大村市の教育大綱を見ていたら、未来へスイッチオンする人とか、かなり自由度の高い文言も入っているので、そこはよくこれから検討してもらえればと思う。それと、この第四期教

育振興基本計画の中で、今まで計画に掲載してあったが、今回は省かれてたいうのがあれば、それも教えて欲しい。

小松教育次長 各課長から、日常業務の中で、大きな課題と捉えているようなものがあれば、発表していただきたい。

中村学校教育課長 学校教育課として、今後を見据えたところでの課題は、不登校対策、ICT教育の推進、当然タブレット端末はすでに整備しているが、授業で活用または子どもたちの学力向上に寄与するという段階まで持っていくというところがあると考えている。部活動の地域移行も当然今現在そして次年度以降、継続して、取り組んでいくが、このことについては国の方の施策、それから市町の部分があるが、どちらかというとスポーツの推進ということではなく、地域、学校、家庭のいわゆる連携の中に、部活動の地域移行で入っている。今までは、学校が主体となっていた中学生の、運動、スポーツ、それから文化活動を学校ではなく、地域の方に移行する。ということは、学校教育課を離れていく。そういったときに、3者の連携のもと、いわゆる学校・地域・家庭の連携とあるが、その中のところに落とし込んでいこうという施策のように感じている。そこをどのようにこれから教育委員会全体としての方針を示していくのかというのが課題ではないかと考えている。

林田生涯学習課長 生涯学習課としては、たくさんの各種団体との繋がりを持たせていただいているが、高齢化が進んでいて、後継者の方を育成するというのは、どの団体においても、大きな問題になっている。その文化などを継承していく方々を育てていくというところを今後大きく考えていかなくはいけないというのが1つある。それと、メディア講習などをしながら子どもたちに対する、メディアとの付き合い方というのを、小・中学校を訪問して、またPTAと協力して講演会を行っているが、もっと踏み込んだ、小学生に上がる前のもっと小さい子どもたちとその保護者向けのメディアの学習会や勉強会を広げていくべきではないかというところも考えている。それと、多くの施設を抱えているが、旧町時代の施設というのは大体建設時期が一緒であり、老朽化が大変進んでいる。これを計画的な整備とか廃止等々を進めていく必要があると考えている。それから歴史文化の方の分野では、文化財等々の適正な保存、整備計画、それを市民の皆様方に、こういう地元の文化というものを、歴史というものを伝えていく、活用していく方法を、今後ますます求められていくのではないかと考えている。

草野スポーツ振興課長 スポーツについては、スポーツの振興という部分では、いろんな教室や大会を開催したりとかあるが、参加者をふやすための取り組み、それから、こういった教室を開催するのか、これまで開催していた従来の教室のみならず、新たな取り組みも必要ではないかなと考えている。それから、スポーツ競技の競技力の向上であったり、ジュニア

スポーツの推進の面でいうと、特に雲仙市は小学生のクラブ活動が非常に盛んで、50クラブほどあるが、九州大会、全国大会に出場するチームもあり、ソフトボールやバレーボールなど盛んですが、今後指導者の育成であったりとかに、どのような支援ができるのかということについて検討していきたいと考えている。それから社会体育施設の整備の部分で、非常に施設の老朽化が進んでいて、年々、改修する箇所も多い。これについては、予算もあり、どのような改修に持っていくのか、施設の効率化を図りながら、利用者の方に迷惑をかけないような形で進めなければならないと思っている。それと、今取り組んでいるスポーツツーリズム、観光の方でも、ともに、取り組んでいるところですが、市内の施設を有効活用しながら、スポーツの振興のみならず地域の活性化にも繋がるような取り組みを、今後進めて行きたいと考えている。

富永総務課長 学校教育の部分で、施設、備品の関係になるが、1人1台タブレットについても、電子黒板についても、一度整備をした。それと、施設の数が多く、これから施設も備品もその更新ということが大きな課題になってくると思っている。

大津教育長 生涯学習課長が申した中には出てこなかったが、例えば、学校教育という中には、学校の先生もおり、教育委員会事務局の中には、指導主事という、学校の先生方、学校を指導する方もいる、大きくそろえたりすることは、国から指導要領がくるので、しっかりとした方向性もあるが、社会教育にはそういうものがあまりないということで、そういう役割の1つに社会教育主事というのがあって、今は事務局内に1名いるが、今度予算の中に、後継者を作って、家庭教育もそうだが、そういうのを計画だてて、家庭教育力の低下、学校の先生は頑張って子どもを学校の中で指導するが、家に帰ったら、テレビ三昧で宿題もしない、先生とまた違った感じの社会教育主事が、こうだよということを伝えていくと子どもとしても戸惑う部分もあるかと思うが、親教育、親だけじゃなくて、地域、大人教育、そういうところを頑張ろうということで、生涯学習課長にも言って、その分の予算を上げており、今後その方面も頑張っていかなければいけないと思っている。

小松教育次長 他にないか。
これで、議事を終了する。
その他について、何かないか。

以上をもって、令和5年度第2回雲仙市総合教育会議を閉会する。

【15：32 閉会】